

本の紹介②（グループ内報告）

□所要時間	60分程度
□主なスキル	ライティング、スピーキング
□形式	例) 4人のグループ
□概要とねらい	
<p>多読では自分のペースで英文を読むことが基本になりますが、読んだ本について他者に伝えることで、理解を深め、読書への意欲を持続させる効果が期待できます。多読授業の醍醐味は、クラスメートと互いに読んだ本について紹介しあい、刺激を受けられることにあります。読んだ本の紹介には様々な方法がありますが（本HPの本の紹介①、③も参照）、ここではグループ単位で報告をする方法を紹介します。</p>	
□事前準備（必要な教材、器具など）	
<p>紹介したい多読図書（実物を見せながら紹介できるとより効果的） その図書について執筆したブックレポート（以下にサンプルあり） オプションとしてスライドやポスターを準備してもよいでしょう。</p>	
□手順	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自紹介したい多読図書についてアクティビティ当日までにブックレポートを執筆しておく。（ブックレポート自体の書き方は、ワークシートを埋める形式でも本格的な書評でもよい。あらかじめ何か報告する内容を準備しておく。） 2. クラスを4人のグループに分ける。 3. 1人持ち時間約4分（質疑応答含む）で自分が読んだ本の紹介をする。（1グループ約20分）。この間教員は適宜グループ間を巡回する。 4. グループを変えて再度実施する。 	

【学生の反応】

- ・ 様々なジャンル、様々な着眼点があり、どれも興味をひかれた。
- ・ 感想や質問をされるとしっかり聞いてくれていたと思い、嬉しかった。
- ・ 1回目も和やかな雰囲気楽しかったし、2回目は1回目より上手にできてうれしかったです。みんな面白い発表をしてくれて読んでみたい本がたくさんありました。
- ・ 非常に楽しく取り組みました。プレゼンは苦手でどこちない部分もたくさんあったのですが、自身のbook reportを基に、良い紹介が出来たかなと思います。
- ・ 私のグループではみんなしっかり報告できました。1回目の発表は時間配分ができずあまり上手いかなかったのですが、2回目は改善できてよかったです。みんな全

く違うシリーズを読んでいたのでも本を選ぶ視野が広がりました。

- ・ すごく長い本を読んでいる人がいて驚いた。
- ・ 自分のレポートが、他の人よりも未熟だと感じた。
- ・ 普段読まないような本の詳細を知ることもできました。
- ・ もっと積極的に質問できるようにしたい。

【応用・解説】

読書が嫌いになる理由として「読書感想文を書かされること」が頻繁に挙げられます。多読では、読書が嫌になるような要素をできるだけ排除するように配慮し、毎回の多読について詳細な感想を書かせるようなことはしませんが、時には読んだ内容についてアウトプットする機会を提供することも多読促進の一助になると考えられます。

グループ内での報告は、クラス全体に向けた発表よりも、参加者の心理的負担が少なく、インフォーマルな形で進められる利点があります。

グループを変えて2回実施することも大事なポイントです。1回では4人のグループのうち自分を除いて3人の報告（3冊の知識）しか聞くことができません。それを2回に増やせば少なくとも6人の報告（6冊の知識）に触れることができます。また自分も2回報告できるので、1回目であまりいかなかったことを2回目で改善するチャンスがあり、どうしたら効果的に伝えられるかを意識して報告をするようになります。（なお、1回目よりも2回目うまく伝えられるように、クラスメートの発表を参考にしながら改善を加えるようにあらかじめ明確に指示しておくことが大切です。）

報告をよりわかりやすくする方法として、①自分が読んだ本の実物を見せて、それをうまく活用する方法、②本の内容・要点をイラストとともに説明したポスターを準備させて、それを見せながら報告する方法、③ポスターの代わりにパワーポイントのスライドを準備させて、それを使う方法などがあります。なんらかの visual aid があると各段にわかりやすく聞き手の興味を喚起することができます。筆者は口頭報告のためにブックレポートを書いてもらいますが、追加でポスターもしくはパワーポイントの資料を作成する課題を加える場合もあります。

口頭で報告する内容は、あらずじと感想（考察）が中心で、ブックレポートで書いた内容がベースになります。したがって、ブックレポートで何を書くように指示するかによって詳細は変わってくるでしょう。

なお、筆者はブックレポートの執筆は基本的に日本語でかまわないと指示しています（英語で書いた場合にはその分追加点をつけると指示）。これは、多読の促進に重きを置いたことと、多様な受講者レベルに配慮した結果ですが、同じくグループ内の口頭報告も日本語で実施しています。クラスのレベルによっては是非英語で実施したいアクティビティではあります。

最後に、口頭報告における質疑応答について補足します。せっかく発表しても、聞き手

から何の反応も得られないということがありますが、筆者は、発表者の報告が終わったら、聞き手は必ず質問かコメントを述べるように指示に盛り込んでいます。そして毎回発表時には努めて明るくフレンドリーにリアクションをするように指導しています。このアクティビティに対する学生の評価は、クラスメートとのコミュニケーションがうまくいったかどうか大きく左右されます。多読を促進するには、互いがポジティブな刺激となる雰囲気づくりが大切です。

【その他備考】

Cf. 参考ワークシート

ブックレポートの簡易版です。A4の紙1枚に簡潔にまとめるバージョンです。

Your Name _____ ID _____

Book Report: Introducing a Book

Book Title (Author)			
Series & Level (例 ORT6, PGR1):		YL Level:	
本の語数:		読むのにかった時間 (およそ)	
ジャンル:		面白さレベル	☆☆☆☆☆

Book Review 以下の余白に書評を書く。本を読んでいない人にも、本の内容がきちんとわかるように書くこと。本文から心に残ったことばや文章を引用したり、自分の体験や関連事項(例: 筆者、時代背景、テーマなど)をリサーチした結果を盛り込むなどして、考察を具体化、深化させましょう。(簡条書きやメモはNG。) タイプして別用紙で提出してもよい。